



今月のことば

Words of the Month

「近況報告」

日本弁理士会副会長

萩原 康司

本年度副会長を拝命し、早速パテント誌から「今月のことば」の執筆依頼が届きました。この場を借りて、とりとめもなく近況報告をさせていただきます。稚拙な文章で恐縮です。予めご容赦ください。

1.

数年前になりますが、自動車を買いました。その前に乗っていた自動車の調子が悪くなったわけではありません。今のうちに最近の自動運転に慣れておこうと思い、自動運転機能の付いた自動車を購入したのです。

私は機械いじりが好きなせいか、若いころからバイク、自動車と色々乗り継いできました。もちろん無茶な運転はいたしません。高速道路に乗ると気づけばいつの間にか追い越し車線ばかりを走っていましたし、わざわざ峠道にもよく走りに出かけました。2ストロークエンジンのバイクに乗っていましたが、あの甲高いエンジン音にはある種、麻薬的な魅力を感じたものです（周りの人、うるさくてすみません）。峠道で自動車のエンジンを高回転で回しながら、タイヤを鳴らしてコーナーを走り抜けるのも爽快でした。

なので、今の自動車に乗り換えるまでは、「自動運転なんて」という気持ちを少なからず持っていました。ですが、今は自動運転がとても気に入っています。意外や意外これが楽ちんで、しかも楽しいのです。何だろう、子分に運転させて、自分はそれを見張っているような不思議な感覚で楽しいのです。

高速道路では走行車線で適当な自動車を見つけると、その後ろで自動運転をセットし、ハンドル操舵もアクセル操作もすべて自動車任せです。追い越し車線に出ることはほとんどなく、高速の入り口から出口までまるでコバンザメのように他人の運転する自動車を追跡しながら走り続けています。

まだレベル2なので、完全に自動車任せにはできません。例えばパイロンを並べて車線規制しているような場合、放っておくと先行車なしと判断し、そのまま加速して直進を続け、大変なことになってしまいます。ですが、普通に先行車と適当な感覚を空けて追従走行するのであれば、自動車任せでもたまにふらつく程度です。自動運転機能の癖に慣れたせいもあって、今ではほとんど不安を感じなくなりました。現状では10~20秒程度ハンドルに触っていないとアラームが出るので、その度にハンドルにタッチしなければならないのが面倒ですが、これだけできるならアラーム間隔をもっと伸ばして欲しいです。自動車メーカーさん是非お願いします。

皆が自動運転をするようになれば交通事故も減るだろうし、煽り運転なんか激減するのでは。年をとって運転も変わってきました。

2.

早いもので弁理士登録をしてから既に30年以上が過ぎました。若手の頃は会務活動にも今よりもっと積極的だったし、会派の会合などにもよく顔を出していました。お陰で、たくさんの弁理士仲間と知り合うことができました。そもそも自分が登録した頃は弁理士が日本国内に3000人程度しかいなかったし、毎年の合格者も100人弱だったと記憶しています。だから、ある程度の会務活動をしている弁理士同士な

らば知り合う機会も多く、顔見知りの比率が高かったように感じます。自然と仲間意識もでき、多くの先生方と会務活動や懇親の場などで楽しい時間をたくさん過ごさせていただきました。

だがここ数年は仕事やプライベートにより多くの時間を注ぐようになり、会務や会派から大分離れていました。その結果、弁理士の知り合いも減ったし、会派の事情や会務活動などには大分疎くなりました。なので、よもや副会長などという大役を今更になって引き受けることになろうとは予想もしていませんでした。

しかし大変ありがたいことに、この度縁あって栄えある副会長を務めさせていただくことになりました。何とかなるだろうと高を括っていたが、色々と仕事が多く結構忙しいものである。まだ任期が始まったばかりで慣れてないのもあるかもしれないけど、やるべきことが多いし、会合や付き合いも盛りだくさんです。Eメールもたくさん来ます。どんどんと片付けていかないと、Eメールが溜まりすぎて対応が間に合わなくなってしまいます。また特に、しばらくの間コロナ禍で行動を制限されていた反動もあってか、まるでここ数年間に溜まった鬱憤を晴らすかのようにリアルでの会合がやたらに増えた気がします。たしかに活気が戻ってきたことは良いことだと思いますけど。

そんな訳で最近では会務や会派の活動によく参加するようになりました。久しぶりに参加してみて新しい知り合いも増えましたが、旧知の顔ぶれが昔と同じようにしている姿を見て、相変わらずだなあという気持ちになり、懐かしく感じています。

ということで、ここ最近では昔味わった楽しい時間を懐かしい気持ちで過ごすことができます。副会長は忙しくて苦勞も多いけど、せっかくなので一年間楽しく過ごせればと願っています。

最後になりますが、日本弁理士会の運営を円滑に行うためには、会員の皆様のご協力が不可欠です。これからも皆様のお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。